

第6章 「不動通り新聞」の発刊

はじめに

2006年度、地域デザインフォーラム第三部会では、東武東上線東武練馬駅にある大東文化大学の学バス発着所のある大東会館から高島平一丁目にある大東文化大学、また都営三田線西台駅、さらに西高島平に及ぶまでの「μ（ミュー）」の形に伸びる大東文化大学周辺地域を対象に「学生のいる街コンテスト」を行った。

このコンテストによって若い学生の意見をも取り入れながら、「不動通り」をいかにして活気ある街にするかという構想については、昨年度の『地域デザインフォーラム・ブックレット元気な学生まちづくり』の上遠野武司氏論文に詳しいが、同書所収拙稿「板橋区協働データベースとインターネットラジオ」にも触れたように、シャッター通りと化した「不動通り」を再開発するためには学生を可能な限り徒歩によって通学させることが必要なことを痛感した。

しかし、現代の学生は、昔とは違って歩かない。学バスの数を減らすことも現時点では難しいことであろう。

昨年度のコンテストに於いて我がゼミでは、コミュニティ新聞の発行をひとつの課題として提出した。これは商店街での情報を学内にも知らせ、同時に大学で行われている様々な行事・活動を新聞にしてこれを地域住民に知らせることを最大の目的とするが、これによってできるだけ多くの学生、教職員が地域住民との交流を行うことが「不動通り」を活性化することにはならないかと考えたためである。

ところで、本学環境創造学部は、本年、文部科学省から「現代

的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」の助成金をもらうことになり、この助成金によって筆者は高島平でラジオ局を開設するプロジェクトに参加することになった。

このラジオ局は、免許のいらない半径100m余りにしか電波の届かないFM局を設置することになっているが、昨今、インターネットの普及によって、各家庭にはこうしたラジオを受信するラジオがないということも聞き及んでいる。したがって、こうしたラジオをより多くの人に聴いてもらうためには、これをインターネットラジオによって配信することが不可欠であろうと考える。

もちろん、こうしたインターネットラジオ配信についてはホームページを大東文化大学に置き、ここからアクセスを可能にするが、「現代GP」は板橋区及び区内有志の協力によってなされるものであってみれば、こうした所にもネットアクセスのためのポータルサイトを置くことができる。しかし、はたしてこうしたサイトだけでは、高齢者をも視聴者として獲得することは困難であり、また以上のサイトにアクセスしない人には我々が行おうとしているラジオを視聴してもらうことは難しいであろう。

以上の理由から、今年の段階では「不動通り」を対象に新聞の発行を考えていたが、これをさらに押し広めて、先に触れた「μ（ミュー）」の形の範囲、つまり「不動通り」と「西台周辺」、「西高島平」を対象に、インターネットラジオに直結することを目的に新聞を発行したいと考えている。

発行母体及び発行部数

「インターネットラジオ_新聞」の発行母体は、発行責任を筆者のところに置き、学部・学科を越えた範囲で教員や学生の参加を呼

びかけている。

例えば、これには文学部教育学科、日本文学科の大学院生・学部生、経営学部、外国語学部英語学科の学生が複数参加したいという要望もある。

さらに、学生だけでなく、板橋区のいくつかの企業にも賛同を頂き、これらの方々からの情報の提供、発行した新聞を店舗などに置いていただくことを現在お願いしているところである。

さて、発行部数であるが、平成17年度の国勢調査によって新聞を発行する地区の人口及び世帯数をここに挙げたい。

これによれば、世帯数は約4万となる。

町 丁 目	世帯数	人 口			平成12年国勢調査 世帯数・人口に対する増減(△は減)		
		総数	男	女	世帯数	人 口	
西 台1丁目	1,074	2,501	1,274	1,227	81	20	
	2丁目	1,694	3,899	2,016	1,883	88	25
	3丁目	1,385	3,328	1,671	1,657	35	△ 25
	4丁目	843	2,189	1,029	1,160	189	411
徳 丸1丁目	3,101	6,230	3,229	3,001	29	△ 254	
	2丁目	2,081	4,313	2,174	2,140	158	107
	3丁目	3,231	7,561	3,661	3,900	590	1,346
	4丁目	1,853	4,323	2,145	2,178	41	2
	5丁目	775	2,005	1,004	1,001	△ 3	△ 36
	6丁目	2,107	4,055	2,622	2,333	77	232
	7丁目	590	1,522	770	752	60	156
	8丁目	732	1,845	977	858	116	359
高島平1丁目	3,850	7,604	3,973	3,631	231	99	
	2丁目	8,232	15,073	7,288	7,785	65	△ 1,409
	3丁目	2,730	6,348	3,061	3,287	6	△ 491
	4丁目	848	1,731	969	762	45	19
	5丁目	1,495	3,132	1,703	1,429	84	7
	6丁目	91	91	91	—	△ 9	△ 11
	7丁目	2,463	4,932	2,587	2,345	12	58
	8丁目	1,769	3,627	1,968	1,659	△ 115	△ 311
	9丁目	3,603	7,713	3,734	3,979	△ 28	△ 690

(板橋区役所の統計による)

しかし、これだけの数の新聞を発行しても、特に配布という点においては各世帯に直接投函することは不可能であり、企業体としての新聞の発行でなければ、発行するための資金という点においてもこれを行うことは困難である。

ただ、発行部数の上限の目的をこの世帯数と同数程度に置き、当初は発行を約1万部とし、商店などにこれを配置し、また可能な限り以上の地域の世帯に投函したいと考えている。

またこれは次に述べる新聞の内容とも関係することであるが、新聞に書かれる記事を特定の3つの地域に置くことによって編成を行いたいと考えている。

それは、1つは「不動通り」から大学まで。2つ目は大学から西台周辺。そして、3つ目が大学から西高島平である。

これは記事を集めるのに、ひとつの地域ではおそらくすぐにそのネタの枯渇が恐れられることももちろんであるが、当初、第三部会で企画された「 μ 」計画に沿ったものとして、新聞を発行したいと考えるからである。

ところで、発行部数1万部は、これをこの3つのブロックに分けた場合、特集を組んだところに5千部、それ以外の地域に各2千5百部配布したい。そして、この配布に当たっては、学生たちの足を可能な限り使って、街を歩き、そして情報の収集などによって大学周辺に学生が行き交うようにすることを目的とする。

新聞を商店に置いておいてもらうだけではなく、こうした活動を行うことによって、「学生のいる街」が大学周辺に少しでも出来るようになることを望むからである。

新聞の内容について

新聞の内容は、インターネットラジオとの関係から、まずこのラジオの番組表を掲載したい。

ただし、これはラジオ局の準備が整ってからであり、この番組表が具体的に掲載できるのは、来年度4月以降のことと思われる。

さて、文学部教育学科の教員のゼミが、この新聞発行に参加してくれることになっている。社会福祉、社会教育を専門とするこのゼミでは、周辺地域での社会福祉活動がどのように活発に行われているかを授業の一貫として研究するという目的で、実際に取材をしながら、これについての記事を書いてもらうことになっている。

また、文学部日本文学科の大学院生は、説経を専門とする教員の指導のもと、これまで江戸時代の昔話や伝説などの発掘などに取り組んできた。彼らは板橋区の、特に徳丸や赤塚に残る古い伝説などにも興味を抱いている。板橋区には「板橋区史談会」など、実際に昔話を取材したりあるいは古文書などを読む会などが複数存在していると仄聞する。大学院生がこうした会に参加しながら研究を行い、またそれを報告するような場として、この新聞を活用してくれることは、区と大学との関係を密接にすること必至である。こうした記事をもこの新聞には盛り込みたい。

また、学内には書道研究所があり、ここでは毎月、『大東書道』という雑誌が刊行されている。専門のデザイナーがこの雑誌のDTPを行っているが、その専門家が当新聞のデザインと版下作りに参加してくれる。

大学が発行するものである以上、学問的であることはどうしても必要なものではあろうが、より一般化して誰でもが楽しんでくれるようなものであることも必要であろう。こうした点について

は、イラストなどを多く使いながら子供でも楽しんでくれるようにする努力を忘れないようにしたい。

また、新聞の発行については外部スタッフを数名参加していただきたいと考えている。

ひとつは企画について。これには新聞発行を行う以上の周辺地域に詳しい方を望んでいる。どこで何が起きているか、を知るためだけではなく、地域住民とのコミュニケーションを図りながら、より大学周辺を詳しく知るためには、学生や教員だけの力ではこれを補うことは出来ない。企画の段階で、周辺地域を知る人から情報を得ることはこうした活動を円滑に行うためには不可欠の存在であると思われる。

また文筆についても、できればプロの編集者の参加を切望する。新聞の編集には地域との関係から或いは書くことで人を知らず知らずのうちに中傷するような場合があってはならない。新聞を発行したり編集を行った経験を持つ人がこのスタッフにいて、記事の内容の点検を行ってくれることが必要である。また、こうしたプロの編集者によって学生たちが書く記事の文章に手を入れてもらい、これが学生の文章力のアップにつながれば、今後研究活動や社会活動を行う場合にも非常に有効であろう。

おわりに

環境創造学部は、今年12月にラジオの仮配信を行い、春休みにある程度のラジオ番組を作り、4月以降の充実を図ろうと考えている。

これに合わせて、筆者も新聞の仮発行を1月に行い、来年度から本格的に各月一回で、新聞を発行する態勢を整えたいと考えて

いる。

新聞の発行は、大学周辺を「学生のいる街」にするには、小さな礎にしかならないであろう。しかし、ここに参加してくれようとしている学生たちは、記事を書くことを楽しみ、そして自分が書いたものが人に読んでもらうという喜びを知ることになるであろうし、またこの新聞を足で配る学生は大学の周りに面白いところがあるということを知るに違いない。

こうした活動によって少しでも学生が大東文化大学周辺の住民と知り合い、そして大学周辺をよりよい街にしたいと思うようになることを強く願いつつ、新聞を発行したいと考えている。